

# バンディングかわら版（第10号）

鳥類標識調査（バンディング）で得られた成果をお知らせするニュースレター

## 鳥類標識調査（バンディング）とは？

番号入りの足環（標識）をつけた野鳥を放鳥し、のちに同じ鳥が再発見（回収）されることで、各個体の移動を調べ、その生態を明らかにする調査です。

世界各国で行われており、最も歴史の長い自然環境調査の一つです。日本では1924年に開始されました。現在は環境省が山階鳥類研究所に委託し、多数のボランティア鳥類標識調査員（バンダー）の協力により実施されています。



野鳥につける足環。足環をつけることを「標識」する、その個体が再発見されることを「回収」と言います。

注）この調査は、野鳥を捕獲するための法的な許可（鳥獣捕獲許可）を受け、実施されています。

## 標識調査からどんなことがわかるの？

### アホウドリの長寿記録が更新されました！

アホウドリはその生活のほとんどを海の上ですごし、繁殖期になると絶海の孤島に飛来して、集団で子育てを行います。1949年には絶滅した可能性が高いとまで言われましたが、1951年に伊豆諸島の鳥島で約10羽が再発見されてから、保全活動が行われています。

保全活動に欠かせない手法の一つが鳥類標識調査です。鳥島での継続した鳥類標識調査は、1979年に東邦大学（当時）の長谷川博氏がすべてのひなに足環をつけたことから始まりました。現在は山階鳥研がこの調査を引き継いでおり、1979年以降に鳥島で生まれたアホウドリにはすべて足環がつけられています。生まれた年がわかっています。

2024年11月13日～12月2日に鳥島で、アホウドリの卵数カウント調査が行われました。

11月16日に繁殖地の1つである燕崎で卵を抱いている個体の足環を確認しました。この足環の番号を照合すると、2006年に捕獲したときに、古い足環から新しく交換したものでした。交換前の番号を調べると、1982年3月24日にひなとして足環をつた個体であることが判明しました。このことから、この個体の年齢は42年7か月であることがわかり、これまでのアホウドリの最長寿であった37年8か月から、4年11か月の記録更新となりました。

今回の個体が無事に成長し、繁殖を行い、長寿記録を更新できるほど生存できているということは、継続した保全活動がいかに大切かを教えてくれています。



長寿記録を更新したアホウドリ  
（撮影：今野怜）

継続的な標識調査により、アホウドリが長生きできていることがわかりました。

鳥類標識調査にご協力ください！バンダーになりたい方、足環のついた鳥を発見した方、いずれも右記までご連絡ください。

宛先：〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115  
山階鳥類研究所 鳥類標識センター  
電話 04-7182-1107 FAX 04-7182-4342  
E-mail: [BMRC@yamashina.or.jp](mailto:BMRC@yamashina.or.jp)

## どんな鳥がどのくらい再発見（回収）されているの？

足環をつけて放たれた鳥が、2021年に別の場所で回収された例数は94種1,315例（前年より49例増）でした。このうち国内で足環をつけ、国内で再発見された例数の上位3種は、オオジュリン（386例）、ユリカモメ（199例）、オナガガモ（149例）です。

1961年から2021年までの累計例数は、268種、43,188例となりました。



## 日本の鳥類標識調査の成果が本になりました！

～標識調査がなにかわかる、もっとわかる、どんどんわかる1冊～

1羽1羽に足環をつけて放鳥する鳥類標識調査。名前は知っているけれど、そこからどんなことがわかり、それがどんな役に立っているのだろう。こんな疑問を抱いていませんか？

国内のもっとも長く歴史のある自然環境調査である標識調査は、2024年でちょうど100周年。それを記念して、皆さんが抱えている疑問を解決するために出版したのが本書です。

### 内容

**1章 渡り鳥が世界をつなぐ** 鳥の渡りとは？ 移動距離はどのくらい？ 謎の越冬地や生息地の解明、渡り鳥を通じた国際協力などを紹介。

**2章 鳥はどれくらい生きる？** 毎年わが家に来るツバメは同じ個体か？ 鳥はどのくらい生きるのか？ 絶滅可能性の評価など、鳥類の寿命に関する話題を解説。

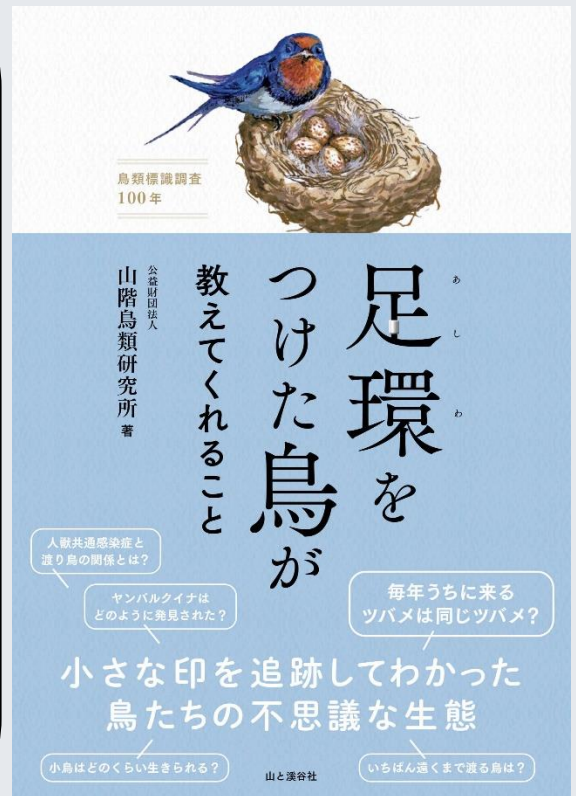
**3章 鳥たちにせまる危機** 人知れず数を減らしている鳥、絶滅危惧種の実情、標識調査が生息地の保全に貢献した例など、標識調査と保全のかわりを報告。

**4章 標識調査でわかる、あんなことこんなこと** 鳥の年齢性別の判断や、新種発見への貢献、人獣共通感染症調査への応用など、標識調査が役に立ついろいろな場面を紹介。

その他：

**鳥類標識調査について** 鳥類標識調査の歴史や、調査員（バンダー）になる方法、標識のついた鳥が発見したときの対処法など、標識調査の基礎を案内。

**コラム** その他の話題あれこれ。



小学生のお子様から大人まで、どなたでも楽しんでいただける1冊です。ぜひ、環境省事業である標識調査のあれこれを知って楽しんでいただければと思います。

山階鳥類研究所 著／鈴木まもる 絵／定価1,980円（税込）／ISBNコード 978-4635230193／2024年11月刊／山と溪谷社／A5 192ページ

標識調査の主要な成果や活用は、以下の環境省ホームページにも掲載されています。より詳しく知りたい方は、以下のURLをご覧ください。

<https://www.biodic.go.jp/banding/utilization.html>